

第1回 瀬戸市居住支援協議会 書面会議ご意見等まとめ

1 居住支援の実績について

ご質問	回答
<p>この「居住支援相談窓口まごころ」は相談者の年齢の縛りがありますか？ 子育て中の家族は対応できますか？</p>	<p>年齢ではなく、住宅確保要配慮者として定義されている「高齢者」「低所得者」「障がい者」「子どもを「養育している者」「刑務所出所者」等が対象となります。瀬戸市居住支援協議会では、相談者ごとに、関係する機関が適切に連携して対応することを目的としております。</p>
<p>相談の流れがあったら教えてほしい。</p>	<p>基本的には、「居住支援相談窓口まごころ」で相談し、対応していただきます。しかし、困難ケースの場合は、関係機関が参集しケース会議を開催して対応する場合があります。</p>

ご意見
<p>資料1を拝見し、着実に支援の実績を重ねられていることを実感しました。今後もいろいろご相談させていただき、一方、私共のできることは全力でサポートさせていただき、お互いに実力をつけていきたいと思えます。</p>
<p>近隣市町村のケースですが、「非高齢者、男性、発達障害、ひきこもり、近隣トラブル、困り感が薄い」という困難ケースで、瀬戸保健所の対応が素晴らしかったです！現在進行中ですが、良い方向です。情報提供できればと思います。</p>
<p>親族や身元引受人がいない方の死後対応について、弁護士や税理士など専門家が事前に財産管理をして、死後の対応を事前に決めることはできますが、財産が少ない人の制度や仕組みも検討することが今後は大切に感じます。</p>
<p>令和2年度は25名の方から相談を受けた。困難事例も多く支援につなげることが難しいケースもあったが、協議会含め各方面の方との連携により、10名の方の契約と3名の方の生活を見直すことで現状のまま暮らせるようサポートし安心して住み続けるための支援につなげることが出来た。特に高齢の方や連絡先の確保が難しい方に対して入居可能な物件の確保・体制・マニュアルづくりについては早急に考えていきたい。</p>

## 2 高齢者が利用できる主なサービスの紹介について

ご意見
居住支援にとって、包括さんの力はとても重要と思います。今後も連携を強めていきたいですね。
身元保証の問題については、包括の皆さんの「正確な理解」が重要です。学習会などされるときは協力させてください。
地域で介護保険サービスの充実も大切ですが、平均寿命と健康寿命の間を短くできる仕組みが大切に感じます。早期発見・早期治療も大切ですが、治療より予防に役立つ地域サービスも増えればと感じます。
昨年から大橋運輸の地域サービスとして、管理栄養士・保健師が毎週水曜日14時から16時まで無料健康相談をしています。まだ相談者も少ないですが、今後は利用者が増えればと思います。
利用可能なサービスや見守りの際のポイントを活用しながら個々の事情や環境に合わせて行政・包括支援センター等と連携することが入居者本人・物件オーナー・近隣住民等地域の安心と安全に繋がると感じる。サービスの利用を含め各専門担当者の連携を強化していきたい。

## 3 その他（瀬戸市居住支援協議会について）

ご意見
瀬戸の実情にあった協議体として伸びていきたいですね。愛知共同住宅協会としても力を注ぎたいと思います。また、愛知県弁護士会にも十分な連携ができるように働きかけていきます。
身元保証の問題については、包括の皆さんの「正確な理解」が重要です。学習会などされるときは協力させてください。
<b>【中部ブロックにおける住まい支援の連携強化の推進に向けて】</b> 事務連絡を読んで、高齢者・障がい者・性的少数者・外国人など、個々が抱える問題は違います。地域の人々が住みやすいまちにするために、これからの社会課題について情報が定期的に届けられると地域の人々の意識も変わると感じます。
<b>【瀬戸市居住支援協議会について】</b> これからの地域課題について、行政だけでなく地域企業や住民と協力し合い取り組むことが今まで以上に大切な時代です。瀬戸市居住支援協議会を通じ、行政と他業種が連携できることは重要と考えます。瀬戸市は愛知県でも高齢化率が高いので、他市にない

新しい取り組みに挑戦できることを期待しています。

その方の自立につながるサポートをしていくために使える制度や情報を把握し個別ケア会議等の開催は必須であるとする。連絡先がないという方はこれから増えていくと考えられるが、そういった方への物件の確保は難しい。現在車で生活している方・退居を迫られているが保証人だけでなく連絡先を頼める人もいないという方からの相談に対し、解決に結び付けることの難しさを感じている。住まい環境は心身の健康維持に不可欠な基盤であり、治安の悪化にもつながる恐れがあるため、市内にある物件の有効活用など前向きに検討していく必要がある。そのためにクリアすべき課題や問題点等が多いと思われるが、居住支援協議会により各専門分野の知恵や強みを活かして瀬戸らしい仕組みを作っていくことがこれからの瀬戸市の活性化にもつながるのではないかと。